

ちょっとひと言!!

市民の声



北浦小学校教室より

広報委員が市民の皆さんに、行方市に寄せた思いをインタビューしました。



●行方市の総合戦略計画は、市民の声を取り入れた素晴らしいものだと思っています。ただ、国や他の市町村で出しているものと、あまり変わらないように思えるのですが、もともと行方市として何か特色のある計画だといったと思います。いろいろ課題はあると思いますが、計画をつくった以上は、よりよい行方市づくりのために実行し、実現に向けて取り組んでいただきますと思います。(60代男性)

●北浦小学校が開校し、旧北浦地区も一つの小学校に統合されました。少子化と子ども達教育環境を考えると致し方ない事ですが、廃校地区の住民としては一抹の寂しさを覚えます。地域の活力向上、ひいては行方市の発展のためにも、

出生率向上が一番大事なのではないでしょうか。また、出生率と経済状態の国際的統計では、とびきり裕福な場合を除けば、裕福度に関比例して出生率が低下する傾向が見られます。これは、所得向上施策だけでは問題が解決できない事を示唆しており、行政に携わる方々の知恵に期待しています。(50代男性)

●人が輝く行方市になって欲しいと思います。自然に恵まれ気候風土も穏やかです。歴史や文化もあります。これらの素晴らしい環境を次の世代に引き継いでいくために、知恵を働かせ、共働してこつこつと前に進んでいけたらと思います。その先導として、議会の皆さん頑張ってください。誰にでもできる仕事でなく選ばれてお願いされたのですから。未来に向かい、市長さん、職員さんと市民のためもうひと踏ん張りしていただくことを念じます。(50代男性)

●行方市に寄せる想い
高校を卒業し上京するまで十八年間住んだ行方市ですが、当時は「ここにはないもの」ばかりに目が行って、都会への憧ればかりを募らせていました。いざ東京で何年も暮らしてみると、逆に「東京にないけれど行方市にあったもの」に気がつくようになりました。電車に乗ればどこにでも行けて、お店に

入れば何でも手に入る東京の街で、青々とした夏の田園を吹き抜ける風が、無性に恋しくなることがあります。(20代女性)

●茨城県の象徴である筑波山は男体山と女体山からなりたっており、見る地域により、それぞれ違う表情、シルエットを楽しませてくれます。私は長年行方市に住んでいますが、行方市から見る筑波山が一番かつこ良く美しいと思っています。同じように県内それぞれの地域に住む人も幼いころから住み親しんだ場所から見える景色に特別な感情を持っていると思います。これからの行方市にも地域特性を活かした地域住民の誇れる市政を期待します。(40代男性)

●かつては、鹿島鉄道が走る絶景のロケーションであった玉造地区の湖岸に太陽光発電が造られてしまった。そして、今尚広大な農地に、狭い住宅地に建設中である。つくば市では大きな問題提起をしてくれています。行方市も安閑としてはいられません。水と緑と自然あふれる風景を子々孫々に残すために行政で早いうちにこれ以上の太陽光発電の建設が進まないように規制をかけることが必要ではないかと思っています。それと同時に遊休農地の対策を真剣に検討する時期ではないでしょうか。(60代女性)

編

集

後

記

新緑の候、市民の皆さんにおかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、早いもので昨年4月の統一地方選挙後あつという間の一年が駆け足で過ぎ去ろうとしています。昨年は市制施行10周年の記念行事等があり、改めて「行方市の良さ」を感じることができました。平成28年第1回定例会が開催され、平成28年度予算をはじめ46件の議案が審議され可決されました。各定例会、臨時議会では重要な議案審議や一般質問では、行方市の問題や課題など多くの質疑応答がなされてきました。広報委員会としても限られた紙面の中で少しでも多くの記事等を掲載できるよう、広報委員会一同一生懸命取り組んで参ります。さわやかな五月晴れの日々をますますお元気で活躍くださいますようお願い申し上げます。(藤崎仙一郎)



議会だよりの
ご意見・ご感想を
お待ちしております。

広報委員会

委員長	正利 信守郎
委員	浩忠 正 仙一 孝太郎
副委員長	子瀬 橋内 阿部
委員	土野 高宮 藤阿
委員	〃 〃 〃
委員	〃 〃 〃